





どうやって避難場所をつくるか？

水制工(シェルター)を設置することで、淵を形成し、**流量低減時にも局所的な水域を確保**

水制工によるシェルター（避難場）の形成例 写真：土器川(香川県)



流量大 流量小

淵形成による水域確保

6

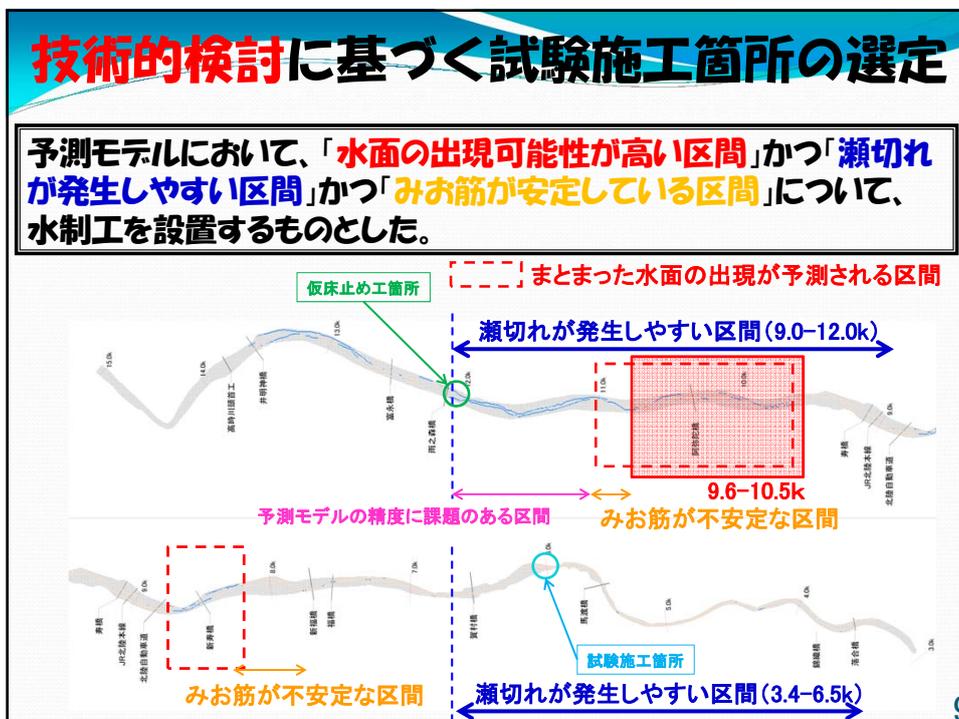
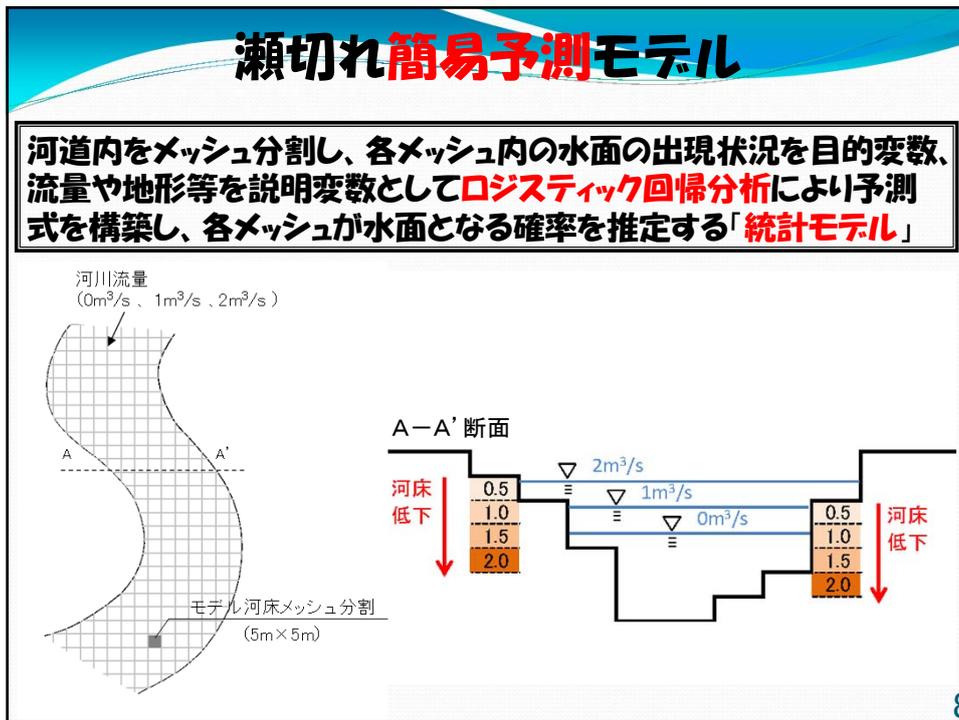
どこに避難場所をつくるか？

安定的に**地下水位が地表近くにある場所**が効果的

↓

瀬切れ簡易予測モデルを構築し、**水面の出現しやすい場所を予想**したうえで、**避難場所をつくる**

7



試験施工の実施

高時川では、平成25年度に、馬渡橋上流(6.0K)付近のみお筋位置が安定した河岸で、水制を設置し、避難場所としての深み形成を確認するための**試験施工を実施した。**

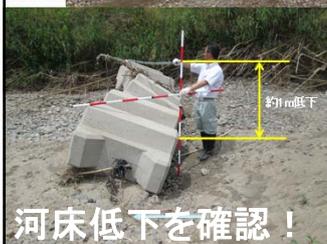


平成26年2月12日実施

10

試験施工の検証

約3か月後の瀬切れ時、水制の上流部に僅かながら水面が存在し、魚も数匹確認でき、**水制による避難場所確保の可能性を実証できた。**



平成26年5月1日確認

魚等を確認！

試験施工のその後・・・

約13か月後の瀬切れ時には水制が土砂堆積により埋没しており、淵および水面が確認できなかった。

平成26年5月1日確認



平成27年6月2日確認



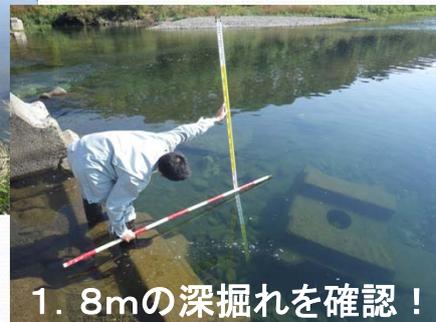
12

水制工の事例

仮床止め工として整備されたものが経年変化により水制工の役割を果たしている。



高時川 高月町雨森地先



13

